

## 第四回 内村鑑三研究会のご案内

日時 二〇二三年九月一日(月曜日・敬老の日) 一四時～一七時

開催方法 対面とZoomのハイブリッド方式として開催

会場は今井館聖書講堂(東京都文京区本駒込六―一―一五)

発表

無教会主義キリスト教の師弟関係―齋藤宗次郎と「恩師」内村を中心に

岩野祐介

『内村鑑三研究』編集委員・関西学院大学教授

〈発表要旨〉無教会主義キリスト教に限らず、近現代日本のプロテスタント・キリスト教の歴史研究においては、しばしば師弟関係に基づいた説明がなされることがある。では、無教会の共同体における師弟関係とはどういうものなのか。矢内原忠雄、齋藤宗次郎ら内村鑑三の弟子たちは、師内村から何をどう受けついでいるのだろうか。内村の師弟関係観・弟子観、また弟子たちの多様なあり方を確認し、無教会主義キリスト教の師弟関係について考えてみたい。

内村鑑三における「常識」の概念

渡部和隆

『内村鑑三研究』編集委員・NCC宗教研究所研究員

〈発表要旨〉教会という信者の信仰生活管理システムのないところで思索と活動を行っていた内村にとって、聖書、天然、社会における様々な諸事象のなからキリストや聖霊、神の聖旨を見分けるという課題は不可避にして不可欠な問題であった。そのために内村が持ち出すのが「実験」「事実」「事実」すなわちキリスト教信仰の経験的事実性だが、その際「常識」が内村の議論において重要な役割を果たしていることが先行研究で指摘されてきた。本発表は内村鑑三の「常識」概念を分析し、「常識」概念が内村の神認識や聖書解釈、社会思想において果たしている役割を明らかにする。まず、「常識」が内村の神認識や聖書解釈において果たしている役割を分析し、「常識」が一種の神学的認識能力であることを明らかにする。次に、「常識」が内村の社会思想的な判断において果たしている役割を分析する。その際、「常識」の抑圧的機能も明らかにする予定である。

司会 ラフエイ・ミシエル (『内村鑑三研究』編集委員、北海道大学教授)

資料・通信費 一〇〇〇円

申し込み Zoomで参加ご希望の方は九月二日までにメールで左記までお申し込みください(氏名、TEL、メールアドレス明記)。折り返し当日ログインするURLと資料・通信費振込口座の情報をお送りします。(対面での参加の方は申し込みは不要。会場に直接お越しください。)

ラフエイ・ミシエル メールアドレス mlafay@let.hokudai.ac.jp

主催 『内村鑑三研究』編集委員会(岩野祐介、柴田真希都、ソントーク・ミラ、高木謙次、千葉眞、ラフエイ・ミシエル、渡部和隆)

問い合わせ ラフエイ・ミシエル メールアドレス mlafay@let.hokudai.ac.jp  
今井館教会内『内村鑑三研究』編集委員会 電話 03-6277-5669